

# これまでの会合の主な意見

---

令和6年1月30日  
事務局

## (1) IGF2023におけるBeyond 5G関連パネルセッションの報告

- **Beyond 5Gの実現に当たっては、必ずしも輝かしい側面だけを考えれば良い訳では無く、周波数利用やエネルギー消費等の課題を認識・解決する必要性について指摘があった**（フィンランド、南アフリカ等）。セッションにおいては、途上国・中小企業等も参画できるオープンかつ持続可能なサービスプラットフォーム・エコシステムを業界が連携して実現する必要性について概ね共通認識を醸成することができた。（石津 NICT Beyond 5Gデザインイニシアティブ長）
- **5G導入においては、業界が社会の期待値を上げ過ぎた反省点も挙げられ、Beyond 5Gの実現に向けては、失敗を繰り返さないことが重要との指摘があった**（フィンランド等）。これに関連し、利用者や社会に理解と支持を着実に得ながら導入を行うための施策が必要であり、**先端技術の研究開発と実用化のフェーズを合わせて実施することが重要**との指摘があった（シンガポール等）。（石津 NICT Beyond 5Gデザインイニシアティブ長）

## (2) 研究開発関係

- 研究開発のための研究開発（自己目的化）を防止し、**開発した技術を事業につなげることが最重要**。そのためには、国が民間企業のやる気のある取組を後押しするだけでなく、事業者は、様々なリスクへの対応を念頭に**経営のコミットメントを含めた体制を構築**して事業化まで責任を持つ必要。また、**事業者と国との対話プロセスを通じて、市場状況を踏まえた骨太で柔軟な現実性のある計画（ストーリー）を構築してステークホルダーの巻き込みにつなげることが重要**。（立本 筑波大学 教授）
- 事業展開を見据えた研究開発では、基礎研究に比べて一桁から二桁ほど投資規模が上がるため、**国の支援も今までとは全く異なる規模感が必要**。（川添委員）
- IOWN構想は、1960年代頃から始めた光の研究成果が生かされており、**短期的な形で全てを捉えると大きな成果や営みにはつながらない**。研究開発を自己目的化させないことや、確実に社会実装を考えていくことも重要だが、**研究者が自分の信念を持って基礎研究を進めていくことも非常に重要**。（川添委員）

### (3) 国際標準化関係

- 近年、標準化活動とエコシステム作りは、技術開発と同時並行で進んでおり、より重要性が増している。エコシステムを形成・拡大するためには、ビジョン（社会的な目的）の創造・共有が不可欠になっており、ビジョンからバックキャストして標準化活動が始まり、さらにバックキャストすることによって、必要な技術開発が実施されている状況。グローバル市場を考慮し、ビジョンの普及やエコシステムづくりを官民で行う必要。(立本 筑波大学 教授)

### (4) 社会実装・海外展開関係

- 通信産業で競争力を得るためには、ネットワークへの支援だけでなく、コンテンツ・サービス、クラウド・データセンタ、端末・機器等の異なるレイヤを含めたエコシステム全体を俯瞰的に見る必要。オール光ネットワークについても、官公庁や民間企業（不動産業等）の活用事例に着目する視点は極めて重要。(立本 筑波大学 教授)
- 海外展開に当たっては、①競争環境が厳しく複雑で国際市場の急激な変化に対し、現地対応も含めた分厚い情報収集と分析に基づく戦略や臨機応変・柔軟な対応力、②中長期的な成長のため、将来的なマーケット規模も意識し、先進国と新興国のマーケットを調和させた展開計画、③今後経済成長する国・地域の経済発展・ライフスタイル向上・新たな社会課題解決のマーケットの特性に対し、日本のライフスタイルやビジネスモデルの受容性、に留意する必要。(立本 筑波大学 教授)

### (5) その他

- 近年、映像コンテンツのトラフィックが増えて通信ネットワークを拡張しなければならない中で、通信分野と放送分野をペアにして技術やシステム・サービスを考えていくことが重要。(川添委員)